

研究1年目の取組の概要

研究テーマ

自分の考えを 筋道を立てて説明できる子の育成 ～学び合いを生かした国語科の授業づくり～

1 研究テーマ設定の理由

学力調査等の結果から、本校児童は説明や方法を問う記述式の問題に弱い傾向にあることが分かった。また、誤答例から、文章内容を読み取る力や、問われていることを的確に把握して答える力にも課題が見られた。

そこで、指導者が教科の特質に応じた言語活動を明確にするとともに、「いしかわ学びの指針12か条」を踏まえながら、根拠や筋道を明確に表現する力や学び合ったことを実践的に生かす力を高める学習活動の充実を図ることとした。今年度は、国語科を中心に取り組み、自分の考えを説明する力を育成するために上記のような研究テーマを設定した。

2 めざす子ども像

- (1) 根拠をあげて説明できる子
- (2) 大事な言葉を落とさずに説明できる子
- (3) 他の人の考えを比べながら、自分の考えを説明できる子

3 実践

(1) 三角ロジックの手法を用いた説明

筋道を立てて説明するためには、自分が体験したこと、学んで蓄積してきた知識等から、何が関連しているのか、それは説明に必要か、それが最適なのかを判断し、相手に伝わるように表現しなければならない。これが出来るように、今年度は右のような三角ロジックの手法を用いた説明に取り組んだ。

(2) 発問の工夫

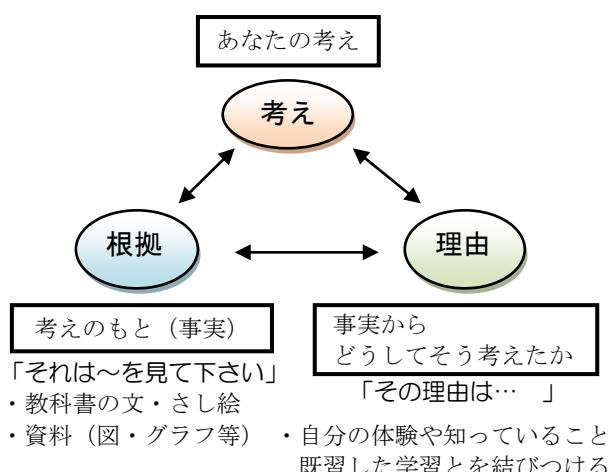
読みの思考を促す発問として

答えが探せば文中にはっきりと示されているもの

また、文中にはっきりと示されていないが、文脈から推測したり、複数の読みを繋ぎ合わせたり、内容をまとめたりすることで見えてくる発問が考えられる。

しかし、絶対的な正解はなく、根拠を示しながら文章の内容や書きぶりについて読み手の経験や知識を用いて、考えを検討したり述べたりするものもある。このような答えを要求する発問をすることで、三角ロジックで伝える必要性が出てくると考えた。そこで、中心発問に「あなたは、どう考えますか。あなただったら、どうする。」という発問を入れ、児童が自分の考えを三角形で伝えられるようにした。

【三角形で伝えよう】



(3) 「物語文・説明文」の系統表の作成

授業を行う際には、どの段階でどのような言語に関する知識や技能を身に付けさせるのか、つけたい力を明確にして、系統的に基礎的・基本的事項の定着を図らなければならない。

そこで、「単元を貫く言語活動」を明確に位置づけ、系統性を踏まえての単元全体を見通した授業構想を立てることができるように、国語科の「読むこと」に関する「物語文・説明文」の系統表を作成した。

※項目は、「ねらい」をはじめ、「5つの言語意識」「学ばせたいこと」「意識させるキーワード」「学習用語」「文章構成」「読書との関連」等である。

（4）使わせたい用語やキーワード・既習事項の掲示

根拠として使わせたい用語やキーワードはいつでも使えるように教室に掲示した。これらを児童が生かせるように「今使わせたい用語」は黒板横に掲示し、いつでも板書上に移動して活用できるようにした。

（5）学び合いが深まるための板書・ノート

板書は、全学年共通に、課題を赤、まとめを青で囲み、キーワードはオレンジで書くようにした。まとめは、キーワードを入れて児童にまとめさせた。また、自分の考えと友だちの考えを比較関連付けができるよう、「ネームプレートの使用」や「共通点、相違点」が見える板書づくりに取り組んだ。

ノートは、「考え方・根拠・理由」を明確に表せるよう学年に応じた目標を決めて取組を行った。

物語文・説明文系統表

《 用語・キーワード 》

黒板横 今使わせたい用語 **教室横** 既習の用語



(6) 学習の基盤づくりの充実

①スキルタイムの取組 (13:50~14:00)

前学年までに学習した基礎的・基本的な学力（「書く力」「語彙力」「計算力」等）の向上を図る。

曜日	月	火	水	木	金
内容	視写タイム	言葉タイム	計算タイム	学級タイム	漢字タイム
ね ら い	早く視写する力の伸長	文法や語彙の使い方等の力の伸長	基礎的な計算力（速さ・正確さ）の伸長	学級の実態に応じ不足している基礎的・基本的な学力の伸長	漢字を書く・読む力の伸長
主 な 取 組 例	教材「うつしまるくん」を使用して力を伸ばす。	①教材「ことばのきまり」を使用して力を伸ばす。 ②辞書のひきかたの指導、練習 ③ローマ字の学習	前学年までの復習 ①過去のスキルタイムプリントの利用 「〇問テスト」 ②「すず漢字コンテスト」の過去問題	該当学年等の学習 ①都道府県名を覚える（県庁所在地も） ②石川県の市町を覚える ③詩の暗唱	①漢字の学習・練習 ②誤字が目立つ漢字の指導 ②すず漢字コンテストの過去問題

*11月は、すず漢字博士コンテスト、12月は、すず漢字博士コンテストの練習問題に取り組み月間とする。

②「活用力タイム」の取組 (13:50~14:10)

毎月23日（いしかわ読書の日）を含む週のスキルタイムを20分間にし、活用力を重視した学習を行う。

				23日	
4 ~ 6	国語 「活用力アップワーク」	国語 「活用力アップワーク」	算数 「活用力アップワーク」	学校読書の日 *ボランティアの方々 教師による読み聞かせ	算数 「活用力アップワーク」
1 ~ 3	国語 「こくごのがくしゅう」 「国語ドリル」	国語 「こくごのがくしゅう」 「国語ドリル」	算数 「さんすうの力」	*感想文を書く *班長や学年代表による図書紹介	算数 「さんすうの力」

*上記の取組を基本とするが、児童の実態に応じて学習内容を工夫する。

（例）筋道をたてた文の書き方の学習 事実（根拠）と理由（判断）、考え（意見）を踏まえた話し方の学習

③目指す児童を明確にするため、「学習を支える身に付けたい力」一覧表の作成

④よりより学習習慣・生活習慣を身に付けるために、「家庭学習の手引き」「バランスアップカード」による取組の実施

⑤読書活動推進のために、地域ボランティア員による読み聞かせや、毎月23日を含む週における読書活動の実施

⑥家庭とのコミュニケーションを促進し、家庭と連携した「明日を担う子ども達の約束」の取組



研究2年目の取組の概要

**研究テーマ　　自分の考えを筋道を立てて説明できる子の育成
～学んだことを活用する場を意識しての授業づくり（国語科・算数科）～**

1 研究テーマ設定の理由

国語科を中心とした1年目の研究によって、ただ漠然と考えを述べあつたり、聞きあつたりするのではなく、三角ロジックを使って根拠や理由を明確にして、自分の考えを説明した学び合いができるようになってきた。また、他教科においても、三角ロジックで説明しようとする姿が見られるようになってきた。

しかし、国語科の単元で学んだことを生かして取り組む場や活用させる場、他教科へ生きて働く力としての位置づけが十分ではない。また、学力調査等の読み取りや記述式の問題において、文章や資料から情報を取り出すこと、また、説明に必要とされる語句を引用して説明することが課題となっている。

2年目は国語科と算数科において、学習用語やキーワードを明らかにし、単元末に単元で身に付けた力を実感させる「単元まるごと活用」の授業を設置し、活用力の育成とその評価方法を探ることとした。そこで場面や目的に応じての説明の仕方や、説明するために何を示せば十分かを考えさせ、説明力や記述力を育成することとした。

2 めざす子ども像

- (1) 根拠をあげて説明できる子
- (2) 文章や資料の中の大事な言葉や数を落とさずに説明できる子
- (3) 学んだことを他の課題にも生かせる子

3 研究の視点

2年目の研究の視点として、大きく「学力・学習を支える基盤づくり」と「活用力を高める授業づくり」の2本の柱を立てた。そのうち特に「活用力を高める授業づくり」に関することとして次のことがらを研究の視点として取り組むことを確認した。

- ・用語やキーワードを習得させ、既習を生かして課題解決に取り組み、三角ロジックを用いた「根拠」や「筋道」を意識した思考論述の仕方や話型の指導の工夫
- ・身に付けたい力を明確にした系統性を生かした指導の進め方（系統表の作成）
- ・単元を貫く言語活動を位置づけた授業の構想（国語科）
- ・式・図・言葉事実・方法・理由の的確な表現の吟味を図る学習指導（算数科）
- ・単元末における「単元まるごと活用力課題」の授業設定
- ・「言葉のスケッチ」による語彙力と主体的な言葉の活用力の育成

4 実践

(1) 「単元まるごと活用」の取組

ねらい：児童が単元全体の学習を通して 身につけた力を自覚し、物事を複合的に考えて課題解決する活用力と実生活に生きて働く力の育成を図る。

活用力を育成するためには、これまで学んできたことを関連づけ、複合的に考え、相手や目的意識、条件や場面意識、表現や理解の方法意識等を持って、課題解決していく力をつけていかなければならぬ。

単元まるごと活用は、単元で学んだことが、日常生活や他の教材にも生かされ実感できる場として考えている。

わずか1時間ばかりの単元まるごと活用をするにあたり、前の学年までに何を学習したか、単元でねらう力がつけられたか、次の学年でどのように発展していくのかを見据えた大きな1時間である。そのため、学習用語やキーワード、単元を貫く言語活動等を意識した国語科（読むこと）算数科の系統表（飯田小版）を生かした指導を心がけた。

また、「単元まるごと活用」の実践記録を取り、今後の指導に生かせるようにした。



(2) 100文字「言葉のスケッチ」の取組

ねらい：自らが表現したい言葉を見つけ出す意欲と、言葉や読書、国語辞書への関心を高め、書き表すことへの抵抗感をなくすとともに言葉の活用力を高める。

○毎週木曜日のスキルタイムに実施する。活用力タイムの時は、10分間交流も行う。

- ①はじめの2分・・・考える時間（課題設定・構成）
(書こうとする内容を頭の中で構想していく。)
- ②なかの5分・・・書く時間（記述）
(考えたことをもとに書く。時間が来たら途中でもストップする。)
- ③おわりの3分・・・まとめの時間（推敲）
(文章を読み返す。間違いを正したり、より良い表現に書き直したりする。)

- ア テーマを設定し、自分の考えが相手に伝わるように書く。
イ 80字～100字以内とする。（低学年80字・中学生90字・高学年100字）
ウ 年間計画に従って、学年に応じて条件を付加する。
(3文で書け・指示語(これは)接続語(なぜかなど)
NGワード(使ってはいけない言葉 など)
エ 習った漢字は使うこと、丁寧に書くこととする。

月	4月	5月
テーマ	「自覚まし時計」 「くも」	「くも」
	「さくら」	「遠足」
	「ぬいぐるみ」	「雨」
	「本」	「すもう」
条件	五感を働かせて書く ふたつを比べて書く	比喩「○○のよう な」を入れる。

研究3年目の取組の概要

**研究テーマ　　自分の考えを筋道を立てて説明できる子の育成
～学んだことを活用する場を意識しての授業づくり（国語科・算数科）～**

1 研究テーマ設定の理由

いしかわ学びの指針12か条推進校指定事業を受けて3年目となる。1年目は、根拠や筋道を明確にして自分の考えを表現することで、思考力・判断力・表現力を育む方向で、具体的には、学び合いの中に三角ロジックを使って自分の考えを表現することを中心に、国語科に絞り研究を進めてきた。

2年目は、国語科と算数科の2教科を中心に学習用語やキーワードを明らかにしながら、根拠にもとづいて自分の考えを筋道を立てて説明できる力を育成してきた。また、「言葉のスケッチ」による語彙力、表現力の育成をはじめ、単元末に「単元まるごと活用」の授業を位置づけ、PISA型学力のような日常生活での課題、あるいは教科を横断する複合的な課題を扱うことでより一層の学力向上を図ってきた。

そして、今年度は、2年間の研究の積み上げを土台とすること、これまでの取組をさらに充実させること、授業での学びを家庭学習へつなげること、これらの実践の積み重ねが真の学力、使える力となると考え研究主題を継続することとした。

2 めざす子ども像

- (1) 根拠をあげて説明できる子
- (2) 文章や資料の中の大事な言葉や数を落とさずに説明できる子
- (3) 学んだことを他の課題にも生かせる子

3 実践

○スマールステップ … 毎日の授業において、基礎基本の習得の流れの中で、必ず「自分の考えを筋道を立てて説明する場面」を設ける。

- 課題設定
- 発問の工夫
- 系統性重視
- 思考を助ける板書

○ラージステップ … 単元末に単元をまるごと活用した授業を組む
・既習を活用して課題が解決できるかを問う（教師はその指導が問われる）

補完するもの…スキルタイム、活用力タイム、言葉のスケッチ、家庭学習（国語日記・算数日記）

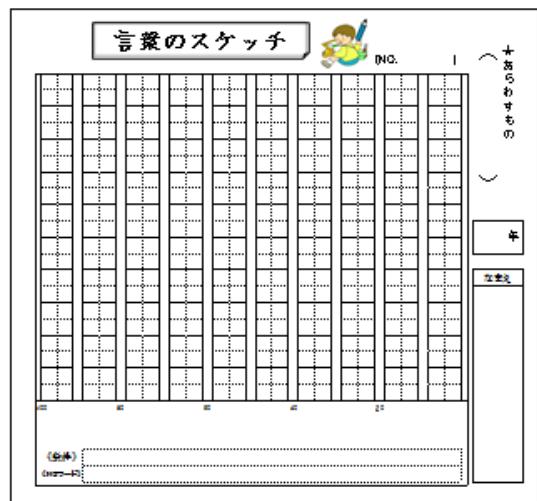
「言葉のスケッチ」の具体的な取組

1 目的

これまで、授業では既習を生かして活用する活動を多く取り入れてきた。この「言葉のスケッチ」は、国語の時間の既習を生かすだけでなく、自ら自分が表現したい言葉を見つけ出す意欲と、言葉や読書、国語辞書等への関心を高め、自ら言葉の活用力をつけていくようにする。

また、継続的に取り組むことによって、書くことへの抵抗感をなくすとともに、全学年で書き表した「言葉のスケッチ」を交流することで、表現の違いや言葉のよさを味わい、ものの見方、考え方、表現の仕方を豊かにしていく。

つまり五感を働かせて物事を言葉で表現することで、言葉に関する興味関心を持ち、子ども達の感性と語彙を豊かにし、表現力や言語感覚を高めることをねらいとする。



2 時間設定

毎週水曜日のスキルタイムに実施する。活用力タイムの時は、10分間交流も行う。

- ①はじめの2分・・・考える時間（課題設定・構成）
(鉛筆を持たずに書こうとする内容を頭の中で構想していきます)
- ②なかの5分・・・書く時間（記述）
(考えたことをもとに書いていきます。時間が来たら途中でもストップします)
- ③おわりの3分・・・まとめの時間（推敲）
(文章を読み返す。間違いを正したり、より良い表現に書き直したりする。)

3 書かせる条件

- ①テーマを設定し、自分の考えが相手に伝わるように書く。（1年生は、4・5月は話す表現）
- ②80字～100字以内とする。（低学年80字・中学年90字・高学年100字）
- ③年間計画に従って、学年に応じて条件を付加する。
『3文で書け・指示語（これは）接続語（次に、なぜかというと）・NGワード など』
- ④習った漢字は使うこと、丁寧に書くこととする。

4 評価

何文字書けたか、いくつ漢字を使ったか、多面的な視点から表現できたか、語彙の広がり（辞書や読書を生かす）など、自分の成長を見比べながら楽しく表現する力を伸ばしていくように評価する。

5 テーマの設定

五感を使って、豊かに表現できる素材や題材を選ぶ。→物を見る目を育てる。

【書かせる際の条件】 … 国語系統表から、適時、学年に応じたものを取り入れる。

第1週…全校同じ共通テーマ 第2～4週…学年に応じた学年テーマ とする。

例

月	4月	5月	6月	7月
テーマ	典「すきな色」	典「雲」	典「雨が降る日」	典「1+1=2」を説明
	学	学	学	学
		学	学	
条件	比較して書く。	比喩「○○のような」を入れる。	NGワード 「かさ」	分かりやすく説明する。
つけたい力	何かと比較して書き表す。	低・中学年は直喩、高学年は暗喩を使う。		例をあげて説明できる。
月	9月	10月	11月	12月
テーマ	典「夏休み」	典「耳をすまして」	典「好きな言葉」	典「1枚の写真」
	学	学	学	学
	学	学	学	学
条件	わたしだけが知っていることを書く。	耳をすませて聞こえる音を書く	理由を書こう。	目の見えない人に分かるように「写真」を説明する。
つけたい力	読み手を意識してわかりやすく書く。	音を表す言葉を用いて表現する。	理由を挙げて書く。	具体的に説明する。
月	1月	2月	3月	
テーマ	典「おもち」	典「ご飯とパンどちらが好きか」	典「好きなメニュー」	
	学	学	学	
		学		
条件	擬人法を入れる	2段落にする。	今までのスケッチを生かして書く。	
つけたい力	擬人法が使える。	段落をわけて書く。		

6 交流

(1) すべての学年の書いたものを1階職員室横の廊下のファイルに綴じて保存しながら掲示する。

(2) 活用力タイムの日は、学級で書いたものを発表する。

(3) 校長賞シールを貼ることで「言葉のスケッチ」コーナーの興味や関心を高めることができる。

また、友だちの作品を読むことで多面的な見方や表現の仕方、情景や心情が伝わる効果的な表現方法を学び合う機会とする。さらに今後の活動の意欲へとつなげる。

